



福井県PTA

◆発行者：福井県PTA連合会 会長 木村正俊 広報委員会
◆発行所：〒918-8135 福井市下六条町1-4-1 (福井県生活学習館2階) TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333
◆ホームページ：http://www.fukui-pta.jp (社)日本PTA全国協議会 http://www.nippon-pta.or.jp/
◆E-mail：mail@www.fukui-pta.jp



CONTENTS

◆会長の一言	2	◆第58回日本PTA全国研究大会 ちば大会に参加して	6
◆第25回日中友好少年少女の翼に参加して	2	◆安全会からのお知らせ	7
◆第29回福井県PTA連合会 子育て研修会報告	3	◆日P調査結果報告	7
◆地区別研修会を終えて	4	◆第66回東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会	8
◆ドクター通信「HPV(ヒトパピローマウイルス)」	5	◆県P掲示板	8
◆生涯学習委員会報告	6	◆編集後記	8

第66回東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会

平成22年10月23日(土)・24日(日)

話そう！笑って抱きしめて ほやの、みんなでやろっさ



実行委員長
石川 浩

福井県各地PTA会員の皆様には、日頃より福井県PTA連合会活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、皆様もご承知の通り10月23日(土)・24日(日)の二日間に渡りまして、第66回東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会を、県内外から2700名を超えるPTA会員の皆様方にご参加いただき、福井県内各地での分科会、そしてサンドーム福井での全体会を開催させていただきましたことになりました。また、多くの参加料を皆様方よりいただきました。大変有り難く、重ねて御礼申し上げます。

一昨年、石川県七尾市で、子どもたちを育てる前に、親自身が育つ「親育ち」をテーマに石川大会が開かれました。昨年の名古屋大会では、「家庭・学校・地域」の連携の重要性を見つめ直す機会として「地域のトライアングル」をテーマに名古屋大会が開催されました。そして、今年の福井大会では、2大会の実績をふまえ、より具体的な実践テーマとして、「話そう！笑って抱きしめて ほやの、みんなでやろっさ」とさせていただきます。

子どもたちの幸せは全ての親の願いです。そのためには、子どもたちを笑顔で抱きしめ、向き合って話をし、コミュニケーションを深めることによって、子ども

第66回 東海北陸ブロックPTA研究大会
福井大会
日程 平成22年10月23日(土)・24日(日) 会場 サンドーム福井

メインテーマ
**話そう！笑って抱きしめて
ほやの、みんなでやろっさ**

大会日程	10月23日(土)	10月24日(日)
開会式	10:00 開会式	10:00 開会式
分科会	10:30 分科会	10:30 分科会
閉会式	15:00 閉会式	15:00 閉会式

分科会内容

分科会	分科会内容	分科会	分科会内容
第1分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進	第2分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進
第2分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進	第3分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進
第3分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進	第4分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進
第4分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進	第5分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進
第5分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進	第6分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進
第6分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進	第7分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進
第7分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進	第8分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進
第8分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進	第9分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進
第9分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進	第10分科会 子育て支援	子育て支援の推進 「子育て支援」の推進

記念講演講師

講師／落語家 三遊亭 好楽氏

●日本テレビ系「笑点」に出演中!!
正統の「笑点」を聞いて落語の世界に魅せられ入門を決意。
古典落語に情熱を傾ける。
TVやCMにも活躍しているが、講演にも力を入れ、高校生対象の講演活動で全国を回る。
また、ガンプラをテーマにした落語を発表したりNTT「てれび」で「お笑い落語」で時事ネタを行なったりと情熱的に活動。
講演会では得意の落語で場内を沸かす「生きた笑点」を伝えています。

たちに勇気と誇りを与えることが大切ではないでしょうか、同時に、親、教師、地域の人たちも互いにもっと近づいて、朗らかに語り合い、助け合い、共に生きる社会を目指して活動していこうではありませんか。

福井大会は、笑顔のある家庭の中で親子が共に成長し、また、学校や地域との繋がりが自然と深まってくるような大会をめざしていますので乞うご期待下さいます。

また、福井県PTA連合会では、24日の全大会を、毎年開催致しております福井県PTA連合会研究大会と位置づけしております。落語家の三遊亭好楽氏を講師にお招きし「笑顔のコミュニケーション」として記念講演会を開催させていただきますので、是非、多くの皆様にご来場頂きたくお願いを申し上げます。10月23日・24日にお待ち申し上げます。

編集後記

この夏、記録的な酷暑にみまわれ、そんななか広報紙の編集作業を進めてきました。原稿を執筆・寄稿いただいた皆様方のおかげをもちまして、なんとか101号の発行にこぎつけることができました。ご協力をいただきました方々に深く感謝申し上げます。

次号では、10月に本県で開催される東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会の成功をお伝えすることを大変楽しみにしています。

広報委員長
橘 英亜機

県P掲示板

今後の活動案内

第66回東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会
日時：平成22年10月23日(土)・24日(日)
テーマ：話そう！笑って抱きしめて
ほやの、みんなでやろっさ

記念講演：三遊亭好楽氏
全体会場：サンドーム福井

県PTAゆめ基金・小規模校支援募集月間
平成23年1月

県PTAゆめ基金協力月間(書き損じハガキ等の回収)
平成23年2月

PTA諸活動関係者の表彰推薦期間
平成23年2月

平成22年度PTA活動のまとめ冊子・広報紙102号の発行、配布
平成23年3月

平成22年度広報紙コンクール作品募集
平成23年3月

「会長の一言」

福井県PTA連合会会長
木村 正俊



平素は、福井県PTA連合会の様々な活動に対しましてご支援とご協力を賜り心より御礼申し上げます。既に、新聞等でご存じかとは思いますが、本年度で4回目となる「全国学力・学習状況調査」が今回は抽出方式で行われました。その結果、本県は初年度からのトップレベルを維持することができました。これは大変素晴らしい結果であり、我々保護者としてもうれしい限りです。

しかし、その一方で、悲しい虐待の事件が毎日のように報道されており、県内の児童相談所にも1年間で約250件の相談が寄せられています。これは氷山の一角だそうです。相談したくても相談できないといったケースを入ると、実際はこの2倍以上とも言われています。何故、相談できないのでしょうか？原因の一つとして、親も子どもも、その行為が「虐待」と気付かないことがあります。親は「子どもを躰けている」と思い込み、子どもは「自分が悪いことをしたから叱られた」と認識している場合です。こういった場合、一体、誰が「虐待」だと見極めるのでしょうか？それは、意外にも「第三者」なのです。今、私たちの世代は社会との関わりを避ける傾向にあり、人と人との絆が薄れてきているように思えますが、もし、社会がもう少し温かい関係で結ばれていて、この「第三者」がこの行為にいち早く気づいてあげられたら、また、子育ての悩みを聴いてあげられたら、「虐待」はもっと減少するのではないのでしょうか。

私たちPTAもこの問題に真剣に向き合い、考えていかなければならないと思います。そして、子どもたちに夢や希望を与え、未来を担う子どもたちへの豊かな環境づくりのため、「話そう！笑って 抱きしめて」を合い言葉に、今後も活動していきたいと思っています。

安全会からのお知らせ

安全安心啓発事業 推進助成金交付について

県PTA連合会安全会では、子どもの安全・安心を守るための事業を積極的に推進し活動している単位PTAに対して、助成金を交付しています。今年度は七月中旬に申込みを締め切ったところ、二十六の単位PTAから申込みをいただきました。それぞれの実施計画書を審査した結果、二十六校すべての単位PTAに助成金を交付することになり、先日「交付決定書」をお送りしました。ここで、それぞれの事業の内容の一部をご紹介します。

- ・見守り隊用の腕章補充
- ・救急法の講習会(AEDの使用法)
- ・危険箇所表示安全マップ
- ・不審者侵入対応用さすまた設置
- ・かけ込み一〇番の家表示用旗
- ・防犯パトロール用安全ベスト
- ・下校見守り活動用懐中電灯
- ・交差点一旦停止足型付け用ペンキ
- ・防犯ステッカー、危険箇所表示看板
- ・自転車点検シール



今年度は都合で応募されなかったPTAも次年度の事業計画をたてられる際には、この事業のことを念頭におかれ利用されることをお勧めします。

第二十五回日中友好 少年少女の翼に参加して

友情の力

開成中学校 3年4組 山本 美月

私は、今回の旅で得る物がたくさんありました。その中でも一番心に残ったのは、一緒に行った八班の仲間との思い出です。

八班の人たちと会う前は、とても不安でした。「初めて会う人たちと一週間も過ごせるのだろうか。」と思っていました。でも八班の仲間は、全員の部屋を回って、挨拶をしに来てくれて、すぐに仲良くなることができました。その後の食事などでも会場までの移動を一緒にするなど、まだ一日もたっていないのに、こんなにも仲良くなれるのかと驚きました。万里の長城や鳥の巣と一緒に見学してその大きさに感動し、全員で来る事ができて良かったと思いました。でも、誤解が生じてケンカをしてしまうこともありました。話し合いをしてより仲を深めることができました。



短い期間でしたが、私は今回の旅で「友情に時間関係ない。」ということを知りました。

あんなにも短い期間でここまで分かります。

日中友好「少年少女の翼」に参加して

大野市開成中学校 高津 玲那

私はこの日中

友好「少年少女の翼」に参加できてとても良かったです。中国では日本で見られないものをたくさん見ることができました。



私が一番心に残ったのは万里の長城です。万里の長城がとても大きいものだとは知っていましたが、実物は想像していたよりも迫力がありました。こんな大きなものが人の手でつくられたなんて考えられませんでした。登ってみると、坂がきつくてとても疲れました。でも、頂上からの眺めはとても美しかったです。

他にもたくさん貴重な体験ができました。交流パーティーでは中国の中学生とゲームをしたり、ご飯を食べたりできてとても楽しいひとときを過ごすことができました。

同じ班の子とも仲良くなれて、とても楽しい6日間でした。中国の歴史や文化なども学べてよかったです。とてもよい思い出になりました。

外国に行くことは初めての経験で不安でいっぱいでしたが、行ってみるととても楽しくて、もう一回行きたいくらいです。私は、これからいろいろなことに挑戦していきたいと思っています。

今回、お世話になった方々に深く感謝致します。ありがとうございました。

平成21年度 日本PTA全国協議会 環境対策委員会

子どもとメディアに 関する意識調査結果

日本PTA全国協議会では、平成21年11月24日から同年12月7日にかけて、情報通信社会を生きる子どものコミュニケーションと子どもの学びの方法の変化について考える上での資料を収集することを目的に、全国の小学五年生二四〇〇人、中学生二四〇〇人とその保護者四八〇〇人を対象に調査を行いました。

以下結果を抜粋します。

●携帯電話・PHSの所持率はほぼ横ばい

小学生では20.4%と五人に一人は持っている。調査対象が五年生なので、六年生になるともう少し数値が高い。中学生は42.1%と四割を超えるが前年度と比べると小中学生とも変わらない。

メール送受信を見ると小学生は「二通五通」40.4%と一番多い。中学生も「二通五通」が18.2%で最も高いが、前年度「五通以上」16.0%と比較すると改善されている。

メールの相手を見ると、小学生では「母親」77.9%と「父親」53.6%、それから「同じ学校の友人」84.0%がトップ3。中学生は「同じ学校の友人」84.0%、「同姓の友人」67.0%、「違う学校の友人」43.1%が上位にくる。これらの数値と順位は前年とさほど変わらない。

●有害サイトへのアクセスに関心46.0%に達する

保護者の悩みのトップは「料金の使いすぎ」であったが、第三位には「有害サイトへのアクセス」が入り、「フィルタリングソフトの導入等」をするのは45.8%と年々導入が進んできている。保護者は有害サイトへのアクセスを制御することに関心を抱いている。

詳しくは社団法人日本PTA全国協議会ホームページに「調査結果報告書」が掲載されていますので、ご参考になさってください。

生涯学習委員会報告

生涯学習委員長 水野 真由美

今年度の生涯学習委員会は、7年目に突入した「我が家の三原則」事業を中心に活動しております。福井県PTA連合会のスローガンにもなっている、「話そう！笑って抱きしめて」ほやの、みんなでやろっさ」をもとに、「あいさつ」「会話」「食事」「時間」の4つのテーマとし、「我が家の三原則」を夏休み前に募集しました。また、今年度も親と子の往復書簡「一筆啓上 我が家の三原則」も同時に募集し、9月10日締め切りとさせていただきます。昨年同様たくさん応募をいただきありがとうございます。集まった作品の中から、優れた作品には賞状を授与したいと考えております。

また、今年度は東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会も開催されるため、

生活学習委員会
としましても協
力させていただ
きます。

家庭の中で子
供たちとコミュ
ニケーションを
深め、基本的な
生活習慣が確立
されることを目
指し委員一同活
動してまいります。



平成22年度 第29回福井県PTA連合会 子育て研修会報告

人と地域の未来につながる食育

子育て委員長 森久 留美

8月7日(土)若狭図書学習センターにおいて、平成22年度 第29回福井県PTA連合会子育て研修会が行われました。猛暑の土曜日の午後にもかかわらず、県内各地より180名の方にご参加いただきました。今年度は、「人と地域の未来につながる食育」と題して、御食国(みけつくに)若狭おばま食文化館を拠点に食育推進をされておられます、小浜市企画部・食のまちづくり課・政策専門員の中田典子氏に講演をしていただきました。そして、4校(粟小中学校、平章小、鯖江中、小浜中)の食育発表では、それぞれの食の実践やマイ弁当の取り組みを発表してもらいました。その講演の内容をまとめたものを少しご紹介致します。

小浜市は、奈良・飛鳥の時代には、豊かな海産物や塩を朝廷に献上した御食国(御食：天皇の食料)としても知られております。

明治時代の福井市出身の陸軍薬剤師石塚左玄が「食育」という言葉とその理念を提唱したことは、ご存知でしょうか？



講演をいただいた中田典子氏

食育とは「食を通じた人間教育」である。そして、何をすればいいの？食育の実践って？となります。

3つのキーワード

1. 自然界から物(モノ)を取り出し

増殖 栽培

2. 自然の恵み(食料)を道具を使って加工 料理

3. コミュニケーションをとりながら皆で食事 共食

動物とは、違う人間のつながりと会話を楽しむ

第58回日本PTA全国研究大会 ちば大会に参加して

広報委員長 橘 英亜機

8月27日(金)、28日(土)の二日間にわたり、千葉市の幕張を全体会場に、近隣5市に分科会会場を配して、「第58回 日本PTA全国研究大会 ちば大会」が開催され、福井県PTA連合会からは事務局を含め19名が参加しました。

初日はそれぞれに登録した分科会に分かれて研修を受けました。各会場の様子を尋ねると、どれも全国大会という規模のメリットを十分活かした内容の濃い研修だったとのことでした。

二日目は全体会が幕張メッセイベントホールであり、式典では森田健作知事

らの熱烈な歓迎の挨拶を受けました。式典のなかの大会宣言決議では、当県Pの木村会長が日本PTA全国協議会起草委員長として、多少緊張されていたようでしたが、堂々と決議文(案)を読まれ、満場一致の承認を得て決議文が採択されました。

続いて元プロテニスプレーヤーの松岡修造氏による「叱って・ほめて・抱きしめる」と題した記念講演が行われました。空調の効いた会場ではありましたが、松岡氏は汗を流しながら熱く、また時にユーモアを交えながら自分の家族のことや、高校・現役時代に体験したことを語り、終始ひきつけられる内容で、あつという間の90分でした。

続いて行われたアトラクションでは劇団四季による「ちば大会特別プログラム」が披露されました。最後に日P副会長の閉会の言葉で二日間



人は、命を受けた瞬間から老いていくまで、生涯を通じて食によって育まれる「生涯食育」

小浜市では、「食のまちづくり条例」をきっかけ、子どもたちやあらゆる世代を対象にライフステージに応じた様々な食育事業を実施している。ベビー(乳幼児)・キッズ(幼児)・ジュニア(小・中学生)・キッチン(料理教室)を通して子どもたちが、食料に興味を持ち、五感を使った料理体験で、自分でできた感動を得る。親は、手や口を出さず信頼を持って見守ることで、子どもたちとの信頼感が生まれる。そして、子どもたちの目の輝き、食に興味を持つ姿勢が、大人の意識や家庭を変えていくきっかけとなる。

また市民参画のボランティアさんとの関わりで、地域力を最大に活用している。そして栄養に関する知識の習得や料理の技術の向上だけではなく、人として生きていく上での大切なこと、つまり「命の大切さ」を理解させることにもつながる。

例えば、アジを使った料理教室では、「アジは、一度に3万個(小浜市の人口ぐらい)の卵を産むけれど、3年後、成魚になれるのはそのうち一、二尾だけ、だから奇跡の一尾なんだよ」と話すと、どの子どもたちも命の巡り合わせに感動し、その命を有難く頂く気持ちを持つようになる。

生産者の顔が見える「校区内地場産学給食」
市内、全ての小中学校で、校区の中で

収穫された野菜などの食材を優先的に使う取り組みを実施している。海辺の小学校では、米や野菜に加え、地元で採れた海産物までも取り入れている。さらに、平成二十一年度からは、市内全小中学校において、小浜産米の自校炊飯による完全米飯給食が実施され、より一層生産者の顔が見える学校給食が実施されている。

このような取り組みから学校給食の食べ残しが格段に少なくなり、また子どもたちの欠席率が減少したという報告もある。子どもたちは、給食感謝祭や交流給食を通して、生産者と交流を持つ機会が増えた。そして日常においても、下校中に畑で汗を流している生産者の姿や、毎朝重い食材を搬入する姿も自然な形で目に入る。

子どもたちが、そのような姿を見ることが「自分は多くの人に構ってもらっている。大事にされている。愛されている」という気持ちが無意識に持つようになるのではないだろうか。食べ物を通して、人の愛情が理解できる子どもたちには、感謝の気持ちが育ち、何よりも自分自身に対する自信が育まれ、遊びや学びにも意欲的になることを現場で実感している。

未来につながる食育

食育や地産地消、食の安心・安全などを柱に地域を挙げて食をテーマにした取り組みを進めてきました。

この先も、食を大切にし、丁寧に向き合う暮らし方の魅力をこの町から地域内外に発信し、未来に繋いでいきたいと思

平成22年度 福井県幼・小・中PTA活動

『地区別研修会を終えて!!』

副会長 清水 和夫

今年度も福井県生涯学習センター主催のもと、6月19日の丹南地区を皮切りに、県下5つの地区で研修会が開催されました。研修会において、まず、開会セレモニーとして、主催者代表の挨拶を受けた後、開催地の教育長からのご祝辞を賜りました。



そして、PTA指導者の資質向上および保護者の親育ちを図ることを目的に、「コミュニケーション力」

大切さ」「家庭・学校・地域における連携のあり方」「子どもの体の健康」「人権問題」そして、「こころの力を育む」といった内容について、それぞれ専門の講師の皆様から、問題提起がなされ、どの会場も、質問も含めて、有意義な講演会となりました。

続いて、各単位PTAの情報交換の場ということで、実践発表および意見討論を行いました。発表校からは、「パトロール隊などの安全推進



団体の組織化」「親子ふれあい活動」「PTA祭の開催」や「親子奉仕作業」など、地域の特徴を踏まえ「学校と家庭、そして地域の皆さんとの親睦や連携」を図るべく、創意工夫を重ねながら取り組んでいる活動内容が紹介されました。各会場とも、問題提起された事項についても、自身のPTA活動内容を紹介するなど、積極的に討論に参画をいただきました。本研修会によって、子どもたちを取り巻く現代の状況や問題点と、その解決に向けた対応方法なども新たに学ぶことができ、今後の活動の参考になるものと思っております。また、単位PTA同士の情報交換は、新たな発想を見つけるチャンスであり、今後のPTA活動への活性化や充実につながるものであると確信できた研修会でありました。



▼ 東陸福井大会のアピールも実施



(*) 10月23日に開催されます「東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会」各分科会でも実践発表を頂くことになっております。

研修会名	開催日	参加者数	講師	実践発表PTA	
丹南地区	6月19日	約200名	福井大学教授「森 透」氏	(*)南越中学校	南条中学校
奥越地区	6月26日	約120名	仁愛大学学科長「金田 明彦」氏	(*)鹿谷小学校	上庄中学校
坂井地区	7月3日	約150名	福井大学教授「戒 利光」氏	(*)三国中学校	大石小学校
福井・永平寺地区	7月10日	約210名	福井県教育庁主任「百田 忠浩」氏	(*)安居小中学校 (*)永平寺中学校	つばみ幼稚園
嶺南地区	7月17日	約190名	加次リグドーム「鈴木 るみ子」氏	(*)菅浜小学校	青郷小学校

ドクター通信



HPV(ヒトパピローマウイルス) なんのことうでしやう？

福井県PTA連合会 安全会審査委員

(田中病院院長) 田中 廣昌

最近、子宮頸ガンワクチンの接種について、ご父兄、特にお母さんがたの間で話題をあつめているようです。長妻厚生労働大臣が去る7月4日開かれた参議院予算委員会で、「子宮頸ガン」を予防するワクチンの接種費用を来年度、公費で助成する方針を明らかにしました。

我が国における「子宮頸ガン」は、推定で年間約1万5000人が発症し、約3500人が死亡しているという、まさに女性にとつては恐るべき天敵であります。ワクチン接種により、原因ウイルスの6〜7割の感染を予防できると期待されています。しかも、専門家は11〜14才の女児への接種が最も効果的であると指摘しています。

6月末の時点で、15府県では全く行われていませんが、既に126の市区町村では公費助成が行われています。

「子宮頸ガン」ワクチンは、我が国では昨年10月に承認されたばかりですが、任意接種のため、計3回、約5万円の費用は全額自己負担となります。そこで日本産婦人科学会をはじめ関係学会や女性国会議員の会な

ど各種関係団体から、長妻厚相に公費助成を求める要望書と署名が、7月に提出されました。今後、新年度予算に盛り込むため、助成額や対象年齢などの具体的なことが議論されることになると思いますが、一部にはいろいろな議論もあるようです。

「子宮頸ガン」ってどんな

病気でしょう

子宮は女性にしかない特別な臓器のひとつです。丁度、ナスのような形をした、赤ちゃんがお母さんのお腹の中にいるときの安住の地です。「おふくろさん」と呼ばれる所以です。

その子宮の入り口付近、頸の部分に出来るガンのことを「子宮頸ガン」といいます。子宮の奥、胎児が育つ袋の部分に出来るガンを「子宮体ガン」と呼び、「子宮ガン」とは主にこの2種類のガンのことを指しています。

「子宮ガン」になれば、ガンの進み具合によっては、子宮や子宮のまわりの臓器を摘出しなければならなくなったり、場合によっては生命自体が脅かされることもあります。しかし、「子宮頸ガン」はその他の

ガンと異なり、その原因やガンになる過程が、ほぼ解明されており、予防ができるガンなのです。

また、定期的に検診を受けることにより、ガンになる前に発見し、不幸な事態を防ぐことが可能なのです。

「子宮頸ガン」の原因とは

「子宮頸ガン」の原因は、ほぼ100%がHPVの感染症であることが明らかになっています。「子宮頸ガン」の発がん性HPVは、男性も女性も共に感染するありふれたウイルスです。多くの場合、性交渉によって感染すると考えられており、女性の約80%が一生に一度は感染しているという報告もあり、性行動のある全ての女性が「子宮頸ガン」になる可能性を秘めていることになります。

ただし、感染したとしても90%以上は発病することなく自然消失してしまいい、発病する人はごくわずかです。また、「子宮頸ガン」になるまでには、通常、数年〜数十年という長い時間がかかるので、定期健診は前ガン状態や早期ガン発見の有力な手段なのです。

「HPV」とは何者

HPV(ヒトパピローマウイルス)は皮膚や粘膜に感染するウイルスで100種類以上のタイプがあります。このうち約45種類のタイプが「子宮頸ガン」の原因となることが多く、発がん性HPVと呼ばれています。それらの中でも16型と18型といわれる2タイプ

が大部分なので、ワクチンはこの2タイプのウイルスに対する免疫をつくらせるというものです。

HPVは1983年に発見され、女性のガンとして世界では2番目に多い、「子宮頸ガン」の原因が解明されました。さらにワクチンも開発されて、現在、世界100カ国以上で使用されています。

ワクチんをうてば「子宮頸ガン」は防げるの？

子宮頸ガン予防ワクチンは、「子宮頸ガン」の原因となりやすいHPV16型と18型のウイルスにたいして免疫をつくらせるものです。全ての発がん性HPVの感染を防ぐわけではありませんので、ワクチンを接種していても、発病の可能性は0ではありません。効果の持続性も調査継続中ですが、少なくとも20年以上の効果も期待されています。

ワクチンの打ち方

ワクチンの接種対象は、10才以上の女性です。このワクチンは、半年の間に3回注射します。初回と2回目の間は1ヶ月、3回目は6ヶ月おくことになっています。

勿論、副作用も皆無ではありません。また、子宮ガン検診が必要になるわけではありませんが、ワクチンを過信しないように。